



### 母屋からの眺め

昨日(2/5)から、母親が四日市の有料老人ホームに入所した。

アルツハイマーが進出し、もう自分の親兄弟、家族の名前や構成の記憶が混乱した状態。

歩くのも困難で、トイレも自分だけでは行けない。食事の際も箸が思うように持てない、などなど。

今の時代は、デイサービスやショートステイなど、介護サービスが充実していると聞かす、仕事をしながら家族が家で看るのは限界がある。

どこの家でも負担が大きいのは息子ではなく息子の嫁。イラダなケンカも増える(ウチはまだ少ないと思うが)。

自分としてやるべきことは、嫁さんの負担を如何に減らすべきかである。そして嫁さんを含む周囲が「まだ早いのでは・・」という時点から「入所」を画策した。

母親にとっても24時間プロの介護士が見守り続けてくれるところまで過ごした方が、家族にも本人にもはるかに安心・安全なのは間違いないと考えた。

そして入所施設との契約も本人に秘密のまま済ませ、入所の前夜(2/4)母とウチら夫婦で母の好物を中心に「この家では最後であるう夕食の時間」を賑やかに過ごした。

その場で僕の口から「明日からリハビリの名人がいる施設に

行って、しっかりと足を治して来い！」と直球ではなくぼんやりと通告したところ、母は「お、そうか。」と笑顔でうなずいた。

そんな状態でも「直感」は働くのだから。どこか寂しそうな表情を何度か垣間見せていた。

昭和43年に当時は舗装すらされていない未開の地(現在の我が家)に移り住み、

父)の死去、など大変な思いをしながらも、いい思い出の方があつた。30年以上、常に掃除を欠かした日はなかった。そしてついにその息子によってこの家から他所へ送り出される日が訪れた。

非常に自分本位な勝手な思い込みを言えれば、20年前の正常な判断力を持った母であれば、今の僕に對して「よし、よくやつた！」と言ってくれたい。

これで、住人不在となつた母屋と我々夫婦が住む離れの家と広大な山林の中で夫婦二人っきりが住むだけとなつた。二人だけには、あまりに広すぎる。

当面は土日は入所施設へ衣類や消耗品、ちよつとした家具などを運んだり、親戚や母の友人が面会に訪れるので、その案内対応などに向かうことになる。

施設の方は、ケアマネさんやヘルパーさんたちが非常にしっかりとした良い方々ばかりで、とても心強

く安心できる。いざ母を入居の部屋に入れた後、我々が

嫁姑関係に苦勞しながら四日市の電電公社(現エネコ)で3交代勤務を続け、大酒飲みの旦那(僕の父)に苦勞させられながら我々兄弟の子育てにも手を抜かず、そんな中、昭和53年に自分たちで建てた家は今でも忘れない。

その後、住宅ローンの支払いや息子たちの学費、認知症の義母(僕の祖母)の面倒、つれあい(僕の

立ち去るときに「私も帰る！」と騒ぐことも危惧したが、寂しいなりの笑顔で手を振っていた。なんとなく全てを受け入れたように思えた。

これから、ボチボチと母屋の片付けなどを始めていこうと思

母にとっても自分たち夫婦にとつても、次のステージが始まる。まだ夢の段階ではあるが、母屋は将来的に大々的にリフォームして、せつかくの景色をもっと楽しめ

## 川風

しらいし みほ

うれしいひなまつり

長崎の友人宅へ年末遊びに行った際にらんちゃん(初節句だねと、娘さん)のときの7段飾りを

ゆずつてくれました。私より年上なので50年以上前のものです。先週末、娘夫婦がやってきたときに「じーちゃんとかいとが組み立て始めました。ところがまだ土台の階段の組み立てをしようとしたとき、部品が不足しているの

に気がつきました。じーちゃん(初節句)がタンスにかませたりして

くれましたが、そんな7段飾りはうれしくありません。7段飾りは諦めよう。風地蔵のスタッフを送ってくれた初節句のうさぎのおひなさまを飾って、ばあちゃん譲りのちらし寿司と茶碗蒸しでお祝い

をしました。週明けの絵手紙教室で、「初節句に7段飾りもらってくれない？」と救世主が現れました。

お道具はすべてそろっているの、土台の階段だけを頂いて帰ります。仕事を飲むのも忘れ、

「お、お階段が来た？」と組み立てにかかったじーちゃんです。5分も経たないうちに「わからん！しきらん」とさじを投げます。土木の仕事はベテランなのに、こ

ういった日曜大工よりも簡単な三段ボックスの組み立てさえも逆向きに

するようには出来ないのです。分かってい

て、さっさと鎌澤店に電話です。もう風地蔵が閉店して片付けている時間というスマホのテレビ電話を使って教え

て、さっさと鎌澤店に電話です。もう風地蔵が閉店して片付けている時間というスマホのテレビ電話を使って教え

て、さっさと鎌澤店に電話です。もう風地蔵が閉店して片付けている時間というスマホのテレビ電話を使って教え

て、さっさと鎌澤店に電話です。もう風地蔵が閉店して片付けている時間というスマホのテレビ電話を使って教え

て、さっさと鎌澤店に電話です。もう風地蔵が閉店して片付けている時間というスマホのテレビ電話を使って教え

て、さっさと鎌澤店に電話です。もう風地蔵が閉店して片付けている時間というスマホのテレビ電話を使って教え

て、さっさと鎌澤店に電話です。もう風地蔵が閉店して片付けている時間というスマホのテレビ電話を使って教え

て、さっさと鎌澤店に電話です。もう風地蔵が閉店して片付けている時間というスマホのテレビ電話を使って教え

お便りします

風地蔵の皆様 暖かい九州とはいえ昨日より 強風に小雪が舞い今朝は一面の銀世界です 皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思ひます 早速新聞を届けて下さり有り難うございました 私が無精(年賀状)したばかりにご迷惑をお掛け致しました 鎌澤さんの九州旅行とんだハプニング続きで大変でしたね 社長との会話とてもリアルで面白かったです 一人で笑っちゃいましたよ

しました 最後に教室のアイドル的存在である白石さん教室にお迎えして驚くこといっぱい!! とに角あの大きな体にとれ程のエネルギーが詰まっているのでしよう 常にアンテナを張り谷所に出向き情報をキャッチされ、新聞・絵手紙にと活用されています 本場に素晴らしい女性です 私は白石さん、皆様との出会いに喜びを感じております 寒さの折りお体ご自愛下さいませ 平成二十九年二月十一日 太宰府市 土岐和子

ちよつと立ち話

大橋さんの読んだよ。お友達に会えて良かったね。目をつぶると情景が浮かんでくるよ。(お琴の先生)

風地蔵って書いてあるか

ら、最初、宗教かなんかの新聞だと思ってたよ。でも読んだら違っていたね。(船町の方)

直わからないです。(原) 1月に絵手紙年賀状展を風地蔵でやらせて戴き、こんなにくさくさの方が絵手紙をされていることにビックリ!そして絵手紙によつて人の輪が広がったこと、長年されている方にご返事の絵手紙はドキドキで書かせて頂きました。

が大人になって始めて初詣もしました。家に帰っておせちとお雑煮を食べました。 絵手紙を通して、ひとつひとつつながりつつございます。お会いしたことの無い方とも交流ができて暖かい心になれること、そしてなつかしい方からの縁が切れてなかつたことの実感が出来た絵手紙年賀状でした。 これからもずっと続けていきたいです。 結納しましたね。略式でしたが、正式には色替えをするのですがそれを省いてしました。大切な儀式ですね。 奥田さん「スバルのサンバー」ともいい車ですね。子どもが生まれた頃ワンボックスのサンバーにライに乗っていたのでなつかしいです。いろんな思い出が詰まっていたのでしようね。 あまでうすさん本当に座敷童に会ったかと思ひました。(鎌澤)

今年のお正月は去年と同じ、家の近くで初日の出を拝み、姉が家に泊まりに来ていたので、姉がお雑煮を作りました。今年の初詣は近所の氏神様を入れると4社行きました。絵手紙を書いたことはありませんが、本格的に書いたのは「絵手紙年賀状展」がきっかけです。 座敷童は青森のとある旅館の部屋に現れるそうです。予約1年待ちと聞きました。 九州旅行、ゆつくり出来ない社長と旅行。というところでしょうか。(笑) どっちの気持ちも分かるのでなんとも言えません。 私は写真でしか被災した様子を見てないですが、どんな気持ちになるのか正

九州から戻られた店長に真つ先にお聴きしたのが、地震の復興状況でした。写真や報道で見ているだけでしたので実際に見てらして胸に詰まるものがあつたことでしょう。(大橋) ここ2年位、初日の出を拝みに行きました。息子

でも残念でなりません。社長とも相談をして、予定を変更して明日、高千穂峽に行く前に再度立ち寄ることになりました。 和夫さんのおそばを食べるつもりでいましたので、急にお腹が空いてその近くのおそば屋さんに入り、遅い昼食にしました。 和夫さんのおそばの口になっていまして、うーんいまいち」と思ひながら頂きました。 昼食をすまして、一路今日のお宿、黒川温泉 「お宿のし湯」に向かいます。 社長から「のし湯」も若女将の代わりになり、スタッフの方も変わったことをお聴きしていました。なので以前連れて行つてもらったときとど

久しぶりの九州旅行 パート3

鎌澤 宣子

今回の旅の目的の一つでもあつた熊本地震の被災地を訪れることができました。 さあいよいよ阿蘇黒川温泉と、戸無しそば屋のご主人、和夫さんに会いに行きます。 途中、あそ望の郷くぎのに立ち寄りました。この場所には風地蔵で熊本復興写真展を開催したときに貼られた写真にもあつた「まさばあちゃん」の人形があるとこです。実際に見るとかなり大きくて、かわいらしい顔のおばあちゃんでした。社長と交代で記念撮影をしました。あそ望の郷くぎのに着いたとき、ちょうど

るまわしに遭遇しました。こんなに間近でみるのは初めてでしたので、しばし観戦してくぎのを後にしました。 戸無しのそば屋に向かいます。途中、阿蘇大橋に向かう道路は、阿蘇の山をぐるぐると迂回していきます。被害のあつたところと山を一つへだてるだけで、被害のなかつたところにも、山を見てみると所々に山肌がけずれていて、小さな土砂崩れはあつたんだと、あらためて地震の大きさが伝わります。パツと見た目は、のどかでそんな被害があつたなんて分かりませんが、間近で見るとわかります。 そんな話をしながら、阿蘇をぐるぐると回り戸無しのそば屋

の近くまで来て、「あれっ!ここじゃなかつたかな」「看板もないし」「えっ!どうしたの」「山川草木の方じゃなかつたの?」と、二人ともが頭の中をはてなマークいっぱいにしてながら、車を先へと走らせます。 「あつた!場所が変わつてる。でもよかつた!」

でも、どうやら定休日らしく、勝手に店のまわりを回ってみました。鍵がかかっています。残念! 以前和夫さんよりお手紙を頂いて「一度5月にいらつしやい、5月の阿蘇もい受けたい」とお誘いは5月に行く予定を立てていたのですが、あの地震があつて、先延ばしになっていったのです。なので

う変わつているんだろ、か、ふんいきはそのままであつてほしいなど、内心思いながら「のし湯」に到着です。 外からのふんいき、入り口の感じ、以前のままで。ほっと一安心です。 若主人が出迎えてくださつて、あたたかい笑顔にも一安心。そして案内で一步お部屋の中に入ると、若女将が出迎えてくださり、以前のままだの佇まいに「よかつた!」と。スタッフの方達が変わつただけで、のし湯はのし湯なんだと「帰つてきたよー たいま」と、熊本出身でもなびました。 のし湯のことは次号までのお楽しみ。 つづく

